

景況実感調査(6月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 在庫過多。建材ユーザーは大きな落ち込みはないが、物件、案件の多さに物流が比例しない事態が続く。
- ② 足下は厳しく、販売環境改善の徹底を図りたい。
- ③ 稼働日数は21日と、前月比1日増となったが、売上、数量ともにこれに比例しての増加となった。表面処理鋼板は市中在庫も荷もたれ感が増し、一部に安値での商売も顧客情報として散見された。とくに中国材とみられる玉も流通量が増加してきている印象があり、韓国材も品質レベルを上げてきており、競争条件としては国内物と優劣をつけ難く、価格面での選択を強られる場面となってきた。国内メーカーも、一部高級品での優位性を磨くのは当然の戦略であるが、ボリュームゾーンである汎用品の価格競争力を同時に高めてほしい。少ロット多品種への国内窓口である問屋の価値感、存在感は、これからも維持しなければ国内中小製造業は立ちいかなくなる。
- ④ 建築業界は、今後、特需に沸くであろうが、職人不足から工期の後倒しがどこまで出てくるか予断を許さない。

中板

- ① 4～6月の需要もそう大きな落ち込みはなかったが、在庫が漸増している。過剰在庫の適正化が課題である。
- ② 先月に引き続き需要低迷。在庫も多く、売り急ぎか安値も散見。メーカーは強気で供給量も落ちていることから、市況を崩すことなく我慢を続ける。

厚板

- ① 建材分野の基調は変わらず、成約残の処理を進めており高水準の操業が続いている。新規は物件のズレが拡大傾向にあり、具体的な動きは下期以降になると思われる。店売り分野は荷動きが悪く、陥没価格を是正できない状況にある。

—舟安开形鋼

- ① 確かに現況は荷動き低調だが、前同月比なら格段の動きを示している。魔の第一4半期を過ぎて、次のクォーターの整備をすべき時となった。
- ② 建築工事がこれから多くなり、景気が良くなり、少しずつ元気が出るのではないか。

II开形鋼

- ① 荷動きは良くなりつつある。物件が動き出すまではもうしばらくかかりそうだが、前月同様、相場を崩すことなく底上げに努める。
- ② 市況は下がり気味である、またそれが需要を出にくくしている。これが上向きになれば需要も出てくると思うが、そのきっかけがつかめない。

異形棒鋼

- ① 6月も期待外れの状況で、需要増加の気配は感じられない。市況はじり安傾向だが、スクラップ価格の修正高もあって底入れが期待される。もう少し我慢して需要回復を待つしか方策はない。
- ② 店売りは6月と同じく動きが悪い。メーカーは頑張っている。販価も頑張るしかない。

平鋼

- ① 6月の荷動きは前月に続き低位安定。建設需要は秋口以降回復してくると思われるが、足下は低調。人手不足から工期もずれ込んでいる。市中在庫は、小平も入り始め逼迫感はなくなった。メーカーが小平エキストラの改定に動いており、流通もエキストラの改定が急がれる。

鋼管

- ① 大きな変化はなく、前月比では稼働日数分の増加に止まる。配管類に多少動きが見られるが、構造用は低調。
- ② 6月の売上は前年同月比で7%アップであったが、今年に入ってからのも月別比較では平均的。景気は、実感として新聞などで言われているほど良くない。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連部品は消費増税の影響も軽微となっており、またKD部品の輸出が伸びていることもあり、全体的に堅調な動きとなっている。産業機械および工作機械も比較的堅調。建設機械関連は、大型機種以外の中小型機種は輸出を中心に堅調な動きが続いている。店売りの荷動きには大きな変化はなく、横這いで推移している。市況については、メーカーの値上げ実施に伴い、採算確保のため6月より再販価格の転稼を実施している。
- ② 各メーカー値上げ後の材料が入荷してくるので、値上げアナウンスをするものの荷動きが悪く、厳しい状況が続いている。利益確保のためにも販売価格への早急の転稼が課題。

特殊鋼鋼板

- ① 少ロット多品種のため、現場は忙しい。

その他

<電炉品種一般>

- ① じりじりと安値が聞かれる展開となっているが、下げ余地のない流通はいま一度量より質を追求していきたい。秋需は必ず出てくる。メーカーには、需給バランスを考えた生産を要望する。市況維持にはタイト感が必要。製販共で踏ん張っていきたい。

<曲げ加工>

- ① 6月に入って伸び悩み、その日暮らしのような稼働日数だった。鋼材他、全般的に低迷状態で、曲げ加工もいま一つであった。上半期は昨年よりやや増加したが、中小企業にとってはまだ息苦しい状況である。

<スクラップ>

- ① 6月は、スクラップ価格は上昇したが、発生量は低調だった。7月にかけても、価格、稼働率ともにあまり期待できそうにない。
- ② 産業の空洞化が著しい。

<金属表面処理加工>

- ① 6月は紐付き、物件物とも計画通り。スポットは前月比20%以上となり高操業で推移。先物件の見積り依頼も多く、7月以降も確定しており、しばらく紐付き、物件物を中心に高操業で推移しそうである。一方、購入品および輸送費の高騰に苦慮している。